様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年３月３１日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2005～2008
課題番号：　17520080
研究課題名（和文）　古墳壁画の図像学

研究課題名（英文）　Iconography of the tumuri paintings

研究代表者
百橋　明穂（DONOHASHI AKIO）
神戸大学・大学院人文学研究科・教授
研究者番号：30090377

研究成果の概要：

日本古代の古墳壁画、高松塚古墳壁画やキトラ古墳壁画、の図像的系譜と絵画作品としての様式的淵源をたどる本研究課題は東アジア全体に広がる大きなテーマであった。日本国内においても関連する古代寺院壁画の発掘が進み、次第に壁画資料が集積された。それによって古墳壁画の図像について十分な成果を上げることができた。壁画に描かれた主題や内容についてその意味や図像の系譜を明らかにし、成果を論文として公表することができた。一方壁画の長い歴史と豊富な発掘資料に恵まれた中国での調査は中国側の協力を得て毎年順調に実施されて大きな成果を上げることができた。中国各地の壁画墓を主に北西部や中原地方など、地域毎にロード調査実施し、日本古代壁画との比較研究を進めることができた。中国の膨大な量の壁画資料を整理、データ化できたことは何よりの成果である。多くの点で日本の古代壁画は中国隋唐代の陵墓壁画と深い関係があることが認められた。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００５年度	1,500,000	0	1,500,000
２００６年度	600,000	0	600,000
２００７年度	600,000	180,000	780,000
２００８年度	600,000	180,000	780,000
年度			
総　計	3,300,000	360,000	3,660,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史
キーワード：壁画、古墳、古代、四神図、高松塚、キトラ、唐代陵墓、敦煌、

１．研究開始当初の背景
奈良県明日香村で発見された高松塚、キトラ古墳の壁画保存が大きな国民的な関心事であり、その図像的研究が喫緊の課題として浮上していた。また中国や朝鮮半島の壁画墓との比較研究は欠かすことのできない重要な参考例であった。また美術史と考古学の両方に関係するため、この両分野にまたがって研究できる研究者は少なかった。そのため、研究の立ち後れが指摘されていた。

２．研究の目的
飛鳥美人や四神図・十二支図など、日本の古代の美術ではこれまでなかった新しい画題の出現はおおきな関心を呼んだが、意外とその図像の淵源をたどる試みは一部にとどまっている。特に最近の中国における壁画墓の発掘は膨大な数に及び、その時代も範囲も大きく、研究が盛んになりつつある。しかも地域や時代で様々な墓室内の壁画空間は画題と配置において多様である。また韓国との研究交流の中で様々な共通点と相違点とが明らかとなりつつある。そこで、彼我との関係を注視しながら、日本の古代壁画墓の霊的空間の図像学を確立する事を目指す。

３．研究の方法
高松塚、キトラの壁画画題である四神図や十二支の図像的淵源を中国や朝鮮半島に求め、殊に中国各地での実地調査を行う。また中国各地の壁画墓の保存方法を現地の研究者との意見交換を通じて、環境と科学的保存法との密接な連関を指摘する。壁画関係の作例と資料を集積し、データベース化を計る。

４．研究成果
日本古代の古墳壁画、高松塚古墳壁画やキトラ古墳壁画、の図像的系譜と絵画作品としての様式的淵源をたどる本研究課題は東アジア全体に広がる大きなテーマであった。日本国内においても関連する古代寺院壁画の発掘が進み、次第に壁画資料が集積された。それによって古墳壁画の図像について十分な成果を上げることができた。壁画に描かれた主題や内容についてその意味や図像の系譜を明らかにし、成果を論文として公表することができた。
一方壁画の長い歴史と豊富な発掘資料に恵まれた中国での調査は中国側の協力を得て毎年順調に実施されて大きな成果を上げることができた。中国各地の壁画墓を主に北西部や中原地方など、地域毎にロード調査実施し、日本古代壁画との比較研究を進めることができた。中国の膨大な量の壁画資料を整理、データ化できたことは何よりの成果である。そしてそのデータは膨大なデータ集として印刷して公表することができ、多くの研究者の利用に資することが期待できる。
多くの点で日本の古代壁画は中国隋唐代の陵墓壁画と深い関係があることが認められた。他方日本と地理的にも近い朝鮮半島の壁画墓である高句麗古墳壁画については、現地調査は困難であるため、戦前の日本の調査報告や最近の研究成果を取り入れて考察し、一定の成果を上げることができた。日本との関係についても図像的な関係は少ないが、画師の渡来や壁画制作の動機について画期的な見解をもつに至った。
これらの研究の成果は多くの注目を集め、たびたび講演会やセミナーなどにおいて、古代の文化財の価値と保存の重要性を強調し、社会に貢献することができた。
今後の課題としては、増大し続ける中国の発掘例を集積し、また、一方で、同時代の仏教壁画との比較研究や、絵画技法や絵画材質との関連に及ぶ広い視野も必要であろう。その研究成果は壁画保存の喫緊の課題にも有効である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）

① 百橋明穂、キトラ古墳壁画の美術史的位置、　仏教芸術、290、2007 年、p 33-42, 査読あり

② 百橋明穂、高松塚・キトラ古墳壁画～美術史学の視点から～ 、考古学ジャーナル、538、　2005 年、 p 11-15、査読なし

〔学会発表〕（計６件）

① 百橋明穂、「謎のキトラ壁画―そのメッセージと文化遺産の活用」、東アジア文化遺産保存学会、2008 年 4 月 17 日、大阪リサイタルホール

② 百橋明穂、「仏教故事画的世界―敦煌与日本―」、敦煌壁画芸術継承与創新国際研討会、2007 年 8 月２５日、敦煌研究院

③ 百橋明穂、「飛鳥と壁画古墳」、歴史遺産研究部門公開セミナー、2007 年 6 月 30 日、京都造形芸術大学

④ 百橋明穂、「唐朝絵画西漸与西域仏教絵画史」蘭州大学学術交流会、2006 年９月８日、蘭州大学敦煌学研究所

⑤ 百橋明穂、「高松塚古墳・キトラ古墳を考えるー遺跡保存活用のあり方ー」 日本遺跡学会／朝日新聞社 2006 年 5 月 20 日、大阪商工会議所国際会議ホール

⑥ 百橋明穂、「中国の古墳壁画」、『シルクロードの壁画が語る東西文化交流』、『第 29 回文化財の保存および修復に関する国際研究集会』、2006、1 月 27 日、東京文化財研究所国際文化財保存修復協力センター、代々木オリンピック記念センター

〔図書〕（計５件）

① 百橋明穂、古墳壁画の図像学―高松塚・キトラ両壁画墓をめぐって―、『日本美術史の杜』（村重寧、星山晋也先生古希記念論文集）2008 年、ｐ12-26、竹林舎

② 百橋明穂、高句麗壁画、『韓国・朝鮮の絵画』、別冊太陽、2008 年、ｐ11-34、平凡社

③ 百橋明穂、中国の古墳壁画、『シルクロードの壁画　東西文化の交流を探る』、独立行政法人文化財研究所・東京文化財研究所・文化遺産国際協力センター編、2007 年、ｐ73-80、言叢社、

④ Donohashi Akio, ”Ancient painted tumuli in China” “Mural Paintings of Silk Road Cultural Exchanges Between east and West” 2006 年、ｐ39-44、

⑤ 百橋明穂、東アジアの壁画芸術、『高句麗壁画古墳』、2005 年、ｐ54-59、共　同通信社、

６．研究組織

(1)研究代表者

百橋　明穂（DONOHASHI AKIO）
神戸大学・大学院人文学研究科・教授
研究者番号：30090377

(2)研究分担者

(3)連携研究者

○研究協力者

王　輝　　甘粛省考古文物研究所・所長

王　元林　中国文化遺産研究院・研究員

李　天銘　甘粛省博物館・研究員

柴　生芳　甘粛省文化部・秘書

申　秦雁　陝西省博物館・保管部・部長

杜　暁帆　中国ユネスコ文化遺産センター・研究員

孫　暁崗　鄭州大学・美術系・副教授